

初夏を迎えて10日が経ちました。

夏は「富んだ」生活に入って来て、子どもたちの表情も、目の光輝きに変化が見られて期待しております。

園庭で、初夏の陽差しの中、色とりどりのカラー帽子の、花が咲き乱れているかのように、楽しさを表現しております♡”

■ 4月からはじめた年長組のハーモニカ。下のドから上のドまで行って、下のドまで戻ってくる往復が全員できるようになりました。

これまでできれば8音(オクターブ)まで出せたものと言えるでしょう。子どもたちの話し「聞く力」と「やる気」の結果です。

これから簡単な曲に挑戦していきます。自分たちのパートリヤが、すこしづつ増えて行くでしょう。

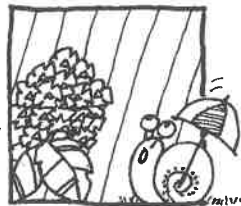
そして、曲もすこしづつ難しくなりますが、パパやママにとって、懐かしい曲も出てくるかも知れません。

年長組の教室から流れてくるハーモニカの音色が、毎日、その成長ぶりを示してくれています。クラス単位の合奏となると、子どもたちの心は驚きと驚きで溢れます。12月の発表会が楽しみです♡

■ 同じように年中組の鍵盤ハーモニカもこの4月からスタートしております。

他園では年長児の活動がほとんど聞いていますが、自園では昔から年中組の活動です。

つぼみと年少児の時「聞く力」も毎日の生活を通して育てて来て、年中児としてその力を発揮しているのです。



年少児ではある程度の音階を理解しており、年中組の教室では椅子の上に置いた楽器の前

前に正座して音符を見ながら、指を動かして、口で吹いて音を出しております。

6月に入って、下のドから上のドまで、そして下のドまでの一往復が出来ようになりました。これから曲に挑戦して行き、来年度の発表会にはホールで合奏発表会です。お楽しみに♡

(心の育ちシリーズ) 積み木は積んで遊ぶの?

はじめてママの安心子育て
内田 伸子

私たち大人にとって「遊び」とは、普段の生活の「息抜き」であり、ストレスの解消の手段のひとつですね。

しかし、子どもにとっての「遊び」とは、生活そのものであり、自分を表現する手段です。誰かに強制される訳でもなく、自分の湧き出る好奇心のままに遊ぶのが楽しいでしょう。例えば、積み木を与えて、木の積み木の遊び方は全く違う遊び方をします。大人は「積み木は積み上げるモノ」と考えがちですが、子どもの発想は自由です。力手力手と打ち鳴らしたり、ひたすら横に並べるひたり……。

ここで大人が「積み木は積み重ねて遊ぶんだ」と教えてしまうと、子どもの好奇心は薄れていくでしょう。

知育にいいと言われる積み木なので、親御さんは「豊かさは発想を持って、手先が器用になるように」と願って買い与えるかも知れません。でも、効果は後からついてくるものであって、「初めに目的ありき」では子どもの自由な発想を奪ってしまいます。

子どもにとっては、毎日が「発想」の実験日です。遊びを次々と発見して行きます。お母さんと お父さんと そんなお子さんに対して、「見守る、待つ、急がない、急がせない」という姿勢を心がけ、出来れば一緒に興味を共有してみませんか。お子さんも楽しくなり、自分と童心に戻って一緒に過ごせることでしょう。

“子どもの自由な遊びは、子どもの豊かな発想の元”
見守り、待つ、急がない、急がせないが大切。